

第2回老人デイサービスセンター指定管理者選考委員会議事録

1 日 時

令和3年9月17日（金）14：30～16：30

2 場 所

横須賀市役所本庁舎分館1階 福祉部会議室

3 出席委員（敬称略）

横須賀市老人クラブ連合会会長	加藤 春樹
横須賀市民生委員児童委員協議会副会長	玉泉 隆治
神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部教授	山本 恵子
横須賀市教育委員会事務局教育総務部教育政策課長	古谷 久乃
横須賀市民生局福祉部健康長寿課長	青木 則幸

4 傍聴者

3名

5 プレゼンテーション参加事業者

<指定管理希望施設>

鷹取老人デイサービスセンター
社会福祉法人 湘南福祉協会

6 議事内容

(1) 開 会

事務局からプレゼンテーション参加事業者及び傍聴者に対して、各選考委員を紹介した。

(2) 議 題

応募団体の公開プレゼンテーション等について

社会福祉法人 湘南福祉協会（以下、「湘南福祉協会」と記載）

(委員)

利用者の要介護度の状況を知りたい。

(湘南福祉協会)

介護保険の認定では、大きく「要介護」と「要支援」の要介護状態区分がある。このうち、鷹取老人デイサービスセンターでは、要支援と認定された方よりも、要介護と認

定された方が多い。全体的に、年々、重い要介護状態区分の方の割合が増えている。

(委員)

認知症の方の受け入れは行っているか。

(湘南福祉協会)

認知症の方の受け入れも行っている。ケアマネジャーやご家族と連絡を取り合うようにして受け入れをしており、認知症を理由に受け入れを断ることはない。

(委員)

法人として、複数の福祉関係施設を運営しているが、障害者施設の運営はあるか。

(湘南福祉協会)

法人として、障害者施設の運営は行っていない。

(委員)

法令遵守や人員体制等について、規則は定まっているようだが、実際の運用についてはどのようになっているか。また、人事関係の組織は存在するか。

(湘南福祉協会)

月ごとにテーマを設けた研修を実施している。人事組織に関する業務は、法人の本部で行っている。

(委員)

利用者や利用者家族からとったアンケートについては、どのように業務に反映されているか。

(湘南福祉協会)

アンケート結果は、集約して利用者や利用者家族にお返しするとともに、職員全員で確認し、サービスの検証に役立てている。

(委員)

令和3年度から導入している科学的介護情報システム（LIFE）の活用状況について知りたい。

(湘南福祉協会)

統計的な処理を行うシステムであり、現在は事例の蓄積を行っている段階である。

(委員)

市内団体等との連携に関して、大学生の実習受け入れについて具体例を知りたい。

(湘南福祉協会)

教員免許状取得のための実習として、市内や近隣他市の大学から実習生を受け入れ、利用者と交流する機会を提供した。また、実習以外でも、現場見学として学生を受け入れた例もある。ただし、令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、受け入れを控えている。

(委員)

放課後子ども教室や、放課後児童クラブとの交流はあるか。

(湘南福祉協会)

営業時間帯の関係で、放課後子ども教室等との交流は少ない。ただし、学校施設開放事業の際に、鷹取老人デイサービス部分の昇降口を利用していただく等、可能な連携はとっている。

(委員)

新型コロナウイルス感染症について、施設休止等の影響はあったか。

(湘南福祉協会)

施設内で発症が確認された例はない。早期から感染症対策を実施し、体調変化の確認や、身の回りで発症等が確認された場合の情報共有を呼びかける等していた。

(委員)

要介護度の高い方が増えると、レクリエーションの実施が減少する、食事の内容が変わる、人員配置が変わる等の影響があると考えられる。施設としての考えはあるか。

(湘南福祉協会)

要介護度の高い方が増えることには、リスクやコストの増加が伴う。しかし、施設としては、利用登録開始の依頼はお断りしないという方針をとっている。民間の他施設で利用登録を断られた方が、最後の頼りという形で依頼してくることもあるためである。一方、状態の重さによっては、通所系の施設を利用する生活が難しくなっていくこともあり、そのような場合には次のステージへの移行を促している。

(委員)

利用登録を断らないという方針は、公立のデイサービスセンターの立場として立てているものと理解してよいか。

(湘南福祉協会)

公立の施設として、法令に違反することはできないと考えている。また、高齢者に対する福祉の基本として、利用希望があり、定員に余裕があるのであれば断る理由はない

と考えている。

(委員)

法人として、病院や地域包括支援センター、認知症対応型グループホーム等の異なる形態の機関を運営している。こうした機関との連携が、法人独自の強みであると理解してよいか。

(湘南福祉協会)

法人内の湘南病院とは連携協定を結んでおり、施設で何か起こった際には湘南病院で受けてもらえることになっている。また、法人内にある特別養護老人ホーム等各種施設について、利用者の状況によっては移転も可能であり、実例もある。様々な形で、グループとしての強みを生かしていきたいと考えている。

(委員)

法人内で、施設をまたいだ人事異動はあるか。

(湘南福祉協会)

実際に、施設をまたいで人事異動を行うことがある。このことについて、様々な現場を異動することで、経験の幅が広がると考えている。

(委員)

新型コロナウイルス感染症の影響で施設が休止となった場合、法人内の他部門から応援を受けて老人デイサービスセンターを継続することは可能か。

(湘南福祉協会)

応援職員は14日間待機しなければならないこと、外部の人員が施設内に入ること、かえって大規模クラスターとなる危険性があることから、応援職員の派遣は困難である。福祉施設は、感染症に対して水際での対策が重要であるという考え方で取り組んでいる。

(委員)

法人で運営している他の老人デイサービスセンターと、鷹取老人デイサービスセンターとを比較して、どのような違いがあるか。

(湘南福祉協会)

法人で運営する太田和湘南ホームデイサービスセンターでは広域で利用者を受け入れているというように、施設ごとで異なる点がある。ただし、鷹取老人デイサービスセンターで勤務した職員が異動していることもあり、利用者の意向を大切にするという、鷹取老人デイサービスセンターと同様の風土は培われていると考える。

(委員)

施設管理について、長期的な施設管理方針や修繕方針は策定されているか。また、市との連携はどのようなになっているか。

(湘南福祉協会)

施設には、導入から時間が経っている備品が多い状況であり、今から長期的な管理方針を立てるのは効果が弱いと考えられる。そこで、備品の更新があった際等に、購入時点から、耐用年数や修繕経歴を考えながら、状況により、定期的な管理保守契約を結んでいる。保守点検の結果を見て、必要な対応をとるとともに、市とも情報共有を行っている。

(3) その他

次回、第3回指定管理者選考委員会は、10月以降とし、詳細は追って連絡することとした。

(4) 閉 会

委員長が閉会を宣言し、会議を終了した。